

令和 8 年 7 月 2 3 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立矢場川小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成 1 5 年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

(3) 自校における評価

※以下の観点を参考に具体的な内容を記載する。

- ・第 1 学年から英会話学習を行うことで、「英語による簡単なコミュニケーション」や「数、色、動物の名前などを英語で言う」等の活動を繰り返し行うことができ、楽しみながらコミュニケーションの基礎を育むことができている。また、体全体を使い、自分の思いを表現することができるようになっている。
- ・第 1 学年から英会話学習に慣れ親しむ機会があることで、繰り返し簡単な英語の歌を聞いたり、A L T のティーチャーズトークを聞いたりすることで、英語での問いかけに自然に反応できる児童が増えている。
- ・第 1 学年から英会話学習を重ねることで、外国の文化に対する興味と関心も高まっている。A L T の母国について、文化の特徴、季節の行事等を英語で質問し、日本との違いを知ることができている。

(4) 学校関係者による評価

＜児童＞ 児童アンケートより

- ・学校全体で82%の児童が、英会話学習に「楽しく取り組んでいる」と回答。
- ・5年生と6年生対象の『英語チャレンジDAY』では、複数のALTとの英語によるコミュニケーションを通して、実際の生活場面を想定した活動を実施した。多くの外国人指導者と活動を通じた英会話に触れられることが楽しさを実感できることに繋がっている。また、今後の英語学習に対しても高い意欲を示していた。

＜保護者＞ 保護者アンケートより

- ・学校全体で79%の保護者が『あなたのお子さんは、英会話学習に楽しく取り組んでいる。』と回答。
- ・矢場川小の子どもにどんな大人になって欲しいか。（自由記述）
→英語力を身に付ける。
→グローバル社会に対応できる英語力をもつ。

自由記述では、様々な意見があり、英会話に関する自由記述では、これからの時代を生き抜くため、英語力を身に付けた方がよいと思っている保護者がいることが分かった。

3. 実施の効果及び課題

〈成果〉

- ・ALTによる英語特有の発音や抑揚を繰り返し聞くことにより、英語に慣れ親しむことができています。
- ・ALTのデモンストレーションとともに、英会話に関する視覚教材がとても有効である。特に、手作りの資料等は児童も高い関心を示していた。
- ・第1学年及び第2学年では、半具体物を示したり、歌やダンス、ゲームを取り入れたりすることにより、楽しい雰囲気の中で英会話学習に取り組むことができています。
- ・5年生と6年生は、英語チャレンジDAYにおいて、一日の5時間を英会話学習として集中して取り組んだ。指導計画を、担任と英語担当者と話し合っただけで、児童の関心や意欲を高めながら実施でき、「話すこと」「聞くこと」を中心に楽しみながら力を付けることができていた。
- ・教室明示や学校内の施設の名称など、児童の目に触れる施設について日本語と英語名を併記したり、曜日や月の名前、天気等を英語名で階段の側面に掲示したりすることにより、日常的に英語に触れることができています。

〈課題〉

- ・ALTとの活動を、楽しみにしている児童が多いが、現在もなお1割程度の児童は英会話学習に苦手意識をもっている。苦手意識をもつ児童は、日本語ではない言語や発音を覚えることに困難を感じていたり、英語を聞いても分からない、英語でコミュニケーションをとることを恥ずかしいと感じている。
- ・高学年になっても、自分の考えや気持ちを友達や指導者と伝え合う「自然なコミュニケーション」までに至っていない児童がほとんどである。
- ・英語担当者・担任とALTとの事前の打合わせ、振り返りの時間の確保が困難である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・児童にとって興味や関心がある年中行事や足利市に関すること、学校行事や他教科等と関連させた具体的な場面や状況を関連付けて体験的な学習を通して指導を行う。
- ・聴覚、視覚、運動感覚など、児童の困り感や状態といった個々のニーズに気づき、受け止め、全体の指導に有効的な工夫を学校全体で共有する。

- ・児童一人一人が友達やA L Tと英語によるやりとりや活動を充分に行うことができるように、一日を通して英語に慣れ親しむことができる英語チャレンジDAYを有効に活用する。
- ・英語担当者・担任とA L Tとの事前の打合わせの時間を確保し、英会話学習のねらいを明確にしながら、目的意識、相手意識、場面意識等を児童と共有し指導にあたるようにする。